

各校ページ【立教新座中学校・高等学校】

五島列島にて

立教新座中学校・高等学校チャプレン ベレク・スミス



今年の夏休みに長崎県の五島列島に行ってきました。ご存じの方も多のですが、五島列島は日本で、一番キリスト教の歴史が根強く残っている地域の一つです。五島列島には数多くの教会が建っており、いまもキリスト教を信じる日本人が多くいます。今回の旅は福江島の五島市から始まり、順番に久賀島、奈留島、若松島、そして中通島に行きました。ガイドに連れられ、一つ一つの島の歴史や特徴を学びました。

江戸時代にはとても苦しい生活をしてきた五島の人々でしたが、その中で代々キリシタンの信仰を守り続けた話を多く聞きました。その中でも一番印象に残った話は牢屋の窄殉教

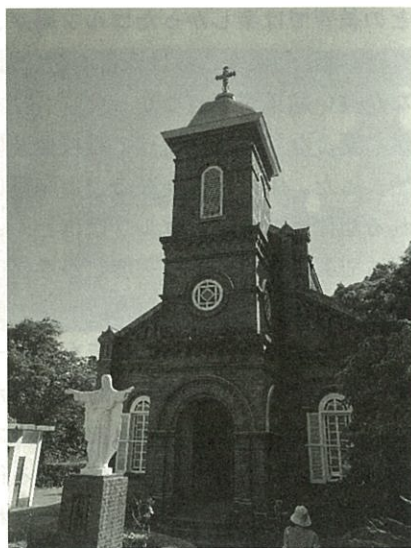


旧五輪教会堂
(五島列島：久賀島)

の話でした。1868年（明治元年）に、長崎に行ったキリシタンたちが、神父が長崎に来ていることを知り、また、ある程度公にキリスト教が信仰されていることを知り、久賀島でも自分たちがキリシタンであることを公にしたのでした。そうしたところ、久賀島で彼らは捕らえられ、子供を含む200名ほどのキリシタンが12畳の小さな家に閉じ込められ、8カ月間そこでぎゅうぎゅう詰めになりました。毎日の食事は朝と夕方に芋一つだったそうです。衛生状態が一番の問題となり、結果として42名のキリシタンが命を落としてしまいました。それぞれの殉教者の記念の石が「牢屋の窄殉教記念教会」の外にあり、

その石の一つにはマリアさもちゃん（8歳）の最後の言葉が刻まれていました。「ゼズさまの五つの傷に対して祈らねばならない。」ガイドさんによると、今でも信仰が一番強い教会は迫害が一番強かった場所にあるそうです。

五島列島の多くの教会は、実はある一人の大工棟梁で建築家の鉄川与助（1879-1976年）によって建てられています。木造だけでなく、煉瓦造り、石造り、そして鉄筋コンクリートの教会も建てています。下の写真は鉄川与助が建てた煉瓦造りの大曾教会です。



大曾教会（五島列島：中通島、1916年）

今回の五島列島への旅を通してキリスト教が日本のものであることを深く感じさせられました。もちろん、最初は海外から来たものですが、仏教と同じように日本人が日本のものとして代々、迫害や苦難を乗り越え信仰している宗教であります。五島の人々の信仰のゆえに神の名を賛美します。